

つけていてよかった

住宅用火災警報器の 活躍事例集



(財)京都市防災協会

監修／京都市消防局予防部

もしもの火災に強い味方

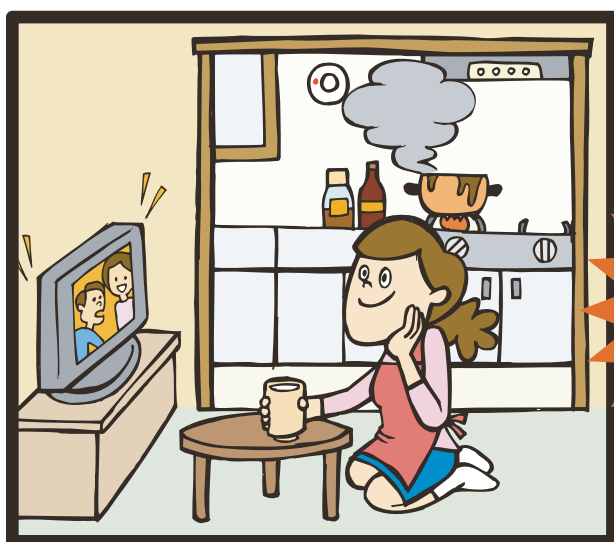
大切な命や財産を奪ってしまう恐ろしい火災。

住宅用火災警報器はそんな火災の発生を、いち早く知らせてくれます。

早く火災に気が付くことで、すぐに避難や消火などの行動がとれ、命や財産を火災から守ってくれます。

そんな住宅用火災警報器の活躍を紹介します。

台 所 編



ガスこんろで煮物を調理中に、居間でテレビを見ていたところ、鍋が空炊き状態になり、台所に設置されていた住宅用火災警報器が鳴りました。



警報音に気付いてガスこんろの火を消し、火災には至りませんでした。

寝室編

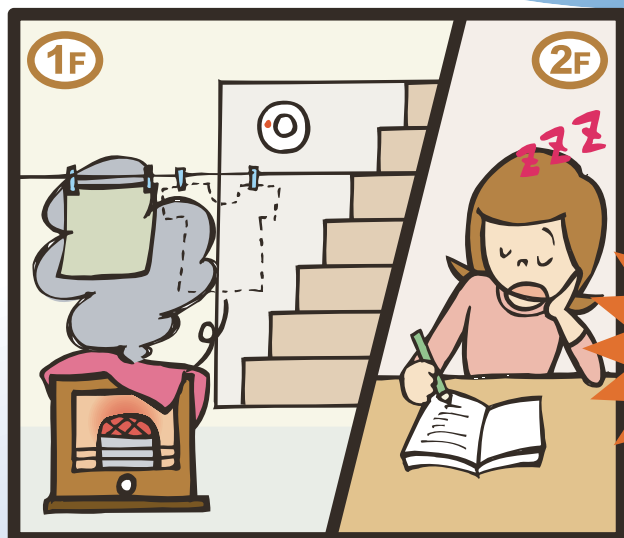


寝室でたばこを吸ったまま寝てしまい、たばこが布団に落下し、発煙しました。



寝室に設置されていた住宅用火災警報器が鳴り、警報音で目を覚まして、すぐに消火したため、大事には至りませんでした。

階段編



1 階の居間で、ストーブの近くに衣類を干したまま、2 階で寝ていたところ、衣類がストーブの上に落下し、発煙しました。



階段に設置されていた住宅用火災警報器が鳴り、すぐに気付いて、消火したため、大事に至りませんでした。

近所編



居住者が鍋をこんろにかけたまま外出したため、住宅用火災警報器が鳴りました。

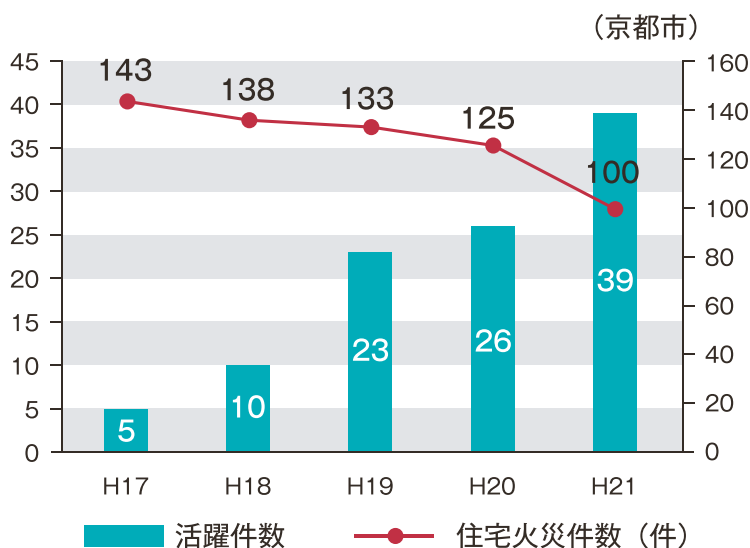


警報音を聞いた近所の人
が、119番に通報したため、
火災には至りませんでした。



住宅用火災警報器の活躍事例の増加と住宅火災の減少

住宅用火災警報器の設置により火災に早く気が付き、大きな被害にならなかった活躍事例は、年々増加したことで、住宅からの火災は減少しています。



平成18年の6月から全国的に新築住宅への設置が義務化されたのに続き、今お住まいの住宅については、京都市火災予防条例により平成23年5月31日までに設置が必要です。